

さくらサイエンスプログラム

JSTとSSSC、タイ同窓会をバンコクで開催

科学技術振興機構（JST）およびJSTが主催する青少年交流事業「さくらサイエンスプログラム」（SSP）に参加した若者で構成する「さくらサイエンスクラブ」（SSC）のタイ幹事団は、2月18日にタイの首都バンコクにおいて、第三回SSCタイ同窓会を開催した。オンライン開催がしばらく続いてきた中で、コロナ収束を見据えての久しぶりの現地開催であり、バンコクを中心にタイ国内各地から総勢75名の出席があった。

タイ同窓会のオラワン幹事長より冒頭、本会が同窓生ネットワークの活性化に寄与するだけでなく、世代も超えて同窓生メンバー同士の絆を一層強めるきっかけになることを期待する旨の挨拶があった。

在タイ日本大使館代表の打田一等書記官、並びにタイ教育省基礎教育局（OBEC）のティ次長より来賓挨拶があり、その挨拶の中で、今年がJASEAN友好協力50周年の節目の年である点にも触れつつ、日本とタイ両国の更なる関係強化に向け全面的な協力を惜しまない旨の発言があった。さらに2014年以来、その関係強化に一定の役割を果たし



タイ同窓会出席者の全体写真（タイ・バンコク）

てきたSSPへの感謝の念や同事業の更なる発展を期待する旨の発言があった。チュラロンコン大学理学部物理学科のパックト准教授より、自身の経歴をスライドで紹介しながら、生命、物理そして宇宙への科学的アプローチ研究の講演が行われ、続いてサニパ獣医学部学部長より、専門分野の獣医学における日本とタイ両国の学術的連携の紹介と共に、その研究推移についての講演があった。

ノッポン同窓会幹事の進行で、別の時期に訪日経験のあるタイ同窓生代表の三名それぞれより、SSPを通して得た学びや気づきについての共有がなされた。また、日本滞在時の活動経験や印象に残った思い出について、当時の手持ち写真をスライド上で投影しつつ紹介があり、会場に集まった同窓生それぞれの懐古の思いを想起させた。

次に再来日への希望を含め、それぞれが抱く将来への期待について進行役から投げかけがあったのに対し、高校生パネリストからは物理学を専門に日本の大学でぜひ学びたいという発言があったのに続き、研究者パネリストの二人からは、学会での再来日希望や日本とタイ両国の共同研究による科学技術の更なる向上を期待する旨の発言があった。

続いて、日本学生支援機構タイ事務所のナムブン教育アドバイザーより、日本留学に際してのきめ細かな情報提供（各種奨学金、日本留学試験概要や訪日タイ人学生の実績および動向等）が行われた。

シワット及びノッポン同窓会幹事の進行で、タイ幹事団企画の抽選会や、SSP（略称「サクラ」）の長命を願う意味合いを込める「サ・ク・ラ」の発声をどれだけ長く持続できるのかを競う競技が行われ、笑顔に包まれる和やかな雰囲気会場を満たした。特にSSP参加年度ごとに登壇した同窓生らから一言コメントを引き出したツググール写真撮影、同窓会の趣旨にふさわしい交流機会と同窓生同士の絆を育む効果をもたらした。



パネルディスカッション

Ms. Jintanant Tohtubtiang  
Dr. Toungporn Uttarotai  
Professor Dr. Panmanas Sirisomboon